

『学術の動向』のリニューアルについて

2017 年 4 月 14 日

日本学術会議第 173 回総会

広報委員長 小松久男

1. 特集の組み方

A. 編集委員会の企画する特集：「科学と社会」という基本理念をもとに発信

4 月号「福島原発災害後の環境と地域社会 ―放射線の影響に関する研究を中心に―

B. 日本学術会議主催のシンポジウム・フォーラムを基にした特集

学術会議の活動の広報・フォローアップのうえで重要な役割

総特集方式の採用 → 関係するシンポジウムを結合、各号にインパクトをもたせる
年間を通してのテーマ設定も検討中

シンポジウム特集の工夫：興味深い討論・質疑の再録、まとめ（成果と課題）の提示

2. コンテンツの豊富化（今期から開設したコーナー）

・日本学術会議が発出した提言・報告の要旨

→ 学術会議の活動の広報・フォローアップのために

・学術における世界の潮流

学術をめぐる世界の動向と日本学術会議の国際的な活動に関する最新情報

・若手アカデミーの動向

若手アカデミー主催のシンポジウム報告を含む

・会員によるエッセイ・オピニオン

・速報：緊急性の高いシンポジウムなどの報告をすみやかに掲載

・地区会議の動向

・「全国縦断サイエンスカフェ」の報告（科学力増進分科会と連携）

・書評コーナー：個別の専門を超えて、学術・教育・研究に関わる新刊書の紹介・批評

* 今期まだ『学術の動向』に登場されていない会員には是非ご寄稿を

3. 『学術の動向』賛助会員の動向

学術会議会員：71 名（H27 末）→96 名（H29.3.）

連携会員：494 名（H27 末）→565 名（H29.3.）

4. 報告

* 英語週刊誌 *Nikkei Asian Review* の Tech & Science のコーナーに英訳掲載

最新の例：今年 3 月号に掲載されたサンゴ礁研究の論稿

* 外部の識者 30 名程度に 1 年間の誌面レビューを依頼 → 誌面の改善